

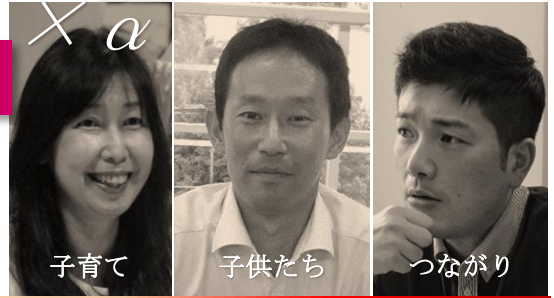
社会教育主事

社会教育士

地域の人たちと一緒に 学びの機会をつくり、
新たな人との出会いや つながりをつくり、
持続可能な地域をつくる。

～ 人づくり つながりづくり 地域づくり ～

活躍する社会教育士(社会教育主事)に訊いてみた… 【Vol. 1】



PASSION ～熱い思い～

YONEDA TAMAMI



地域で
子育て
を応援

米田 珠美
府中町家庭教育支援チーム
「くすのき」代表

資格取得

〈社会教育主事〉
平成 27 年度社会教育主事講習【B】(広島)
〈社会教育士〉
令和 4 年度社会教育主事講習【B】(広島)
「社会教育経営論」「生涯学習支援論」

経歴

東京都江東区でワンオペ育児をしていた平成 7 年、区の社会教育主事が企画立案した『地域リーダー養成講座』を受講したのをきっかけに、自主グループ『こすもず'95』を受講生と立ち上げ、子育て支援活動を始める。平成 18 年に故郷の府中町に戻り、楽しく子育てできる支援をしたいと思い、平成 23 年に「『親の力』をまなびあう学習プログラム」ファシリテーター養成講座を受講。

担当職員の社会教育主事とファシリテーターのグループを作り、平成 26 年文科省に家庭教育支援チーム『くすのき』として登録、コーディネーターとなる。また、平成 25 年から社会教育委員を委嘱される。

(現在)

府中町家庭教育支援チーム『くすのき』代表
『放課後子供教室』コーディネーター
広島県・府中町社会教育委員
広島県生涯学習審議会委員
広島県子ども・子育て審議委員
府中町男女平等推進懇話会委員
府中南小学校コミュニティ・スクール学習サポーター
府中町柳ヶ丘第 3 町内会 会計
手作り工房『ワイルド・ストロベリー』主宰

OHYA HIYOYUKI



子供達
に本物のもつ力を
感じてほしい

大屋 裕幸
社会教育主事
(前教諭/熊野町立熊野第三小学校)

資格取得

令和 3 年 9 月～令和 4 年 8 月
八洲学園大学通信教育

連絡先

広島県立生涯学習センター
TEL : 082-248-8848
FAX : 082-248-8840
メール : sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp
HP : <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/>

経歴

平成 18 年度 東広島市の小学校で臨時教諭として勤務。学年担任と算数科 TT として職務に従事。平成 19 年度～新規採用職員として、呉市立白岳小学校に配属。(～22 年度) 学年担任や保健体育部として校内の体育的行事等の企画・運営を行う。平成 23～25 年度熊野町立熊野第一小学校に勤務。学年担任、少人数指導教員、生徒指導主事の職務に従事。平成 26～令和 3 年度 熊野町立熊野第二小学校勤務。学年担任、生徒指導主事、体育主任、保健主事、研究主任として職務に従事。令和 4 年度 熊野町立熊野第三小学校勤務。学年主任、研究副主任として職務に従事。

SAKAKIBARA EIJI



『幸民館』で
つながり
をつむぐ

榊原 英史
広島市可部公民館
(公財)広島市文化財団)

資格取得

平成 21 年 広島修道大学卒

連絡先

広島市可部公民館
(公財)広島市文化財団)
メール : kabe-k@cf.city.hiroshima.jp
HP : <http://www.cf.city.hiroshima.jp/kabe-k/>

経歴

平成 22～23 年度 広島市佐東公民館勤務。
平成 24～26 年度 広島市白木公民館勤務。

新規事業立ち上げ、地域団体との共催事業で出前講座等を実施する。

平成 27～令和 4 年度 ひと・まちネットワーク部管理課事業係勤務。広島市内 71 公民館の事業のとりまとめ、市内自然の家で実施される感動塾・「みちくさ」事業、県内の大学や短期大学など高等教育機関の連携事業を担当。

令和 2 年度 広島修道大学で「社会教育計画Ⅰ」「社会教育計画Ⅱ」の非常勤講師を務める。

令和 4 年度 広島修道大学で「生涯学習論Ⅱ」の非常勤講師を務める。他、県立広島大学「地域コミュニティ論」での話題提供等、ゲストスピーカー、事例発表を各所で行う。

令和 5 年度現在 可部公民館勤務。事業の企画・運営、庶務事務、経理事務、安佐北区内公民館の事務とりまとめ等を行う。

社会教育主事（社会教育士）になろうと思った

きっかけ

米田 社会教育委員を委嘱されたのをきっかけに、「助言する」という役割を果たせるように、社会教育を体系的に学びたいと思ったのです。「社会教育の必要性を根拠を持って説明できるようになりたい」「何のためにやるのか。」「受講者にどうなってほしいのか。」というビジョンを持って講座を企画したい、という思いが強かったです。自分の実践の裏付けができて自信を持てるようになりたかったですね。

大屋 私は小学校の教員だったので、社会科や総合的な学習の時間の授業や行事などで、地域の方や企業・団体とつながったことがきっかけですね。学校の周りには学習に役立つ地域資源（ひと・もの・こと）がたくさんあるんだなど。これが使えたら、地域の一員である子供たちにとって、学びの充実になるのでは、と考えるようになりました。学習テーマと地域資源をつなぎ、子供たちの学びをコーディネートできるようにしたい。そう思い、通信講座で社会教育士を取ることにしたんです。

榊原 私は2人とは少し違って、大学の社会教育主事課程を履修して資格を取得しました。公民館で「社会教育実習」をするまで、公民館を利用したことはなかったですね。何より、課程履修も「せっかくなら取れる資格は取っておこう！」という軽い気持ちでした。でも、様々な講義を履修していくうちに学校とはまた違った楽しさを感じながら教育に携われる社会教育の素晴らしさにすっかり魅了されてしまいました。

一きっかけは違っても、みなさんそれぞれの実践の中で社会教育の魅力に気付いて資格取得されたのですね。

資格を取られた今、「どのようなことに」「どのような思いで」取り組まれていますか。

米田 資格取得前から、自分の子供だけでなく周りの子供たちや保護者も健やかでなければ幸せにはなれないと気付いて、地域が健全で地域ぐるみで子育てできる環境を作ることが必要だと思っていました。まだ社会教育士として日は浅いですが、今住んでいる府中町で私のように「孤育て」で悩む保護者がいなくなるように、不登校の児童・生徒を持つ保護者のサポートをはじめ、家庭・学校と連携し、地域で子育てを応援で

きる仕組みを家庭教育支援の立場から、コーディネートをしていきたいですね。

榊原 公民館で行われる色々な活動や事業が、多くの方にとってまずは楽しくあってほしい！そして「今日、公民館に行ってよかった！」と思ってもらえるよう、取り組むことを心がけています。目指せ！生涯学習施設！！

大屋 社会教育の良い部分と学校教育をつないで、子供たちの学びを深め広げていきたいという思いで、取り組んできました。「指導」だけでなく、例えば、一人一人の課題や困りごとに寄り添う「支援」に意識を置いて、授業を行ってきました。あとは、地域とつながった学校教育をもっと進めていきたいですね。

一みなさん、それぞれの立場でいろいろな取組を実践されてきたのですね。

社会教育活動の中で一番印象に残っている

エピソード

米田 そうですね。特に印象に残っているのは、不登校児童・生徒の保護者への支援活動ですね。主催していたカフェや「親の会」で同じ中学校の不登校生徒の親が知り合い、電話番号を交換して、子供同士が家を行き来し始めた中学校から連絡があったんです。最初は話すたびに涙が出て言葉が詰まっていた保護者が、「親の会」で他の参加者と交流する中で、年数はかかってもそれぞれの出口を見付けられていく姿に、支援活動を続けていて良かったと感動しました。

大屋 学校も子供たちが安心して登校できるように取り組んでいますが、米田さんのように地域の方の励ましや支えは本当に大きな力となっていますね。以前勤めていた学校では、「銭太鼓」に取り組んでいたんです。時折、地域の祭りに呼ばれて出演したときには、練習の成果を堂々と演技している子供たちを見て、地域の方は、まるで我が子のように誇らしげに見守っていました。その姿を見ていて、地域の中で自分が輝ける場所があることって本当に大切だなと実感しました。

榊原 「居場所」といえば…、地域の方の居場所は、やはり公民館ですね。私は、高齢者の方向けの講座で、参加者はみなさん当時、自分の祖父母と同世代、もしくは年長の方ばかりでしたが、年齢に関係なく、いいなと思った相手や物事を認め、言葉にすることが

できるって本当に素晴らしいことだなと感動したことを、今でもはっきり覚えています。感動や幸せを感じながら、多くのことを学び、自分や周りを変えていこうという原動力や輝きを生み出すことができる！まさしく光民館じゃん！！

一つながりの中で社会教育の原動力となる「居場所」ができていく。「居場所」があるから、一人一人が輝ける、社会教育の魅力ですね。

社会教育主事（社会教育士）としてのやりがい

米田 私は、学校・公民館・地域団体・自治会をつなぐことでWin-Winの関係をコーディネートできたときにやりがいを感じますね。例えば、小学校のクラブ活動に、公民館で活動されている方や地域の方にサポートに入っていただけになったこと。地域清掃日に、中学校と相談し、クラブ活動の開始時間を調整すること。ボランティアに参加する生徒が増えたこと。放課後子供教室に公民館の手話サークルや国際交流協会を通して、府中町在住の講師を招くことができたことなど、様々な団体や関係者の方をつないでお互いにとってメリットのある関係性を築けたときに社会教育を進める一人としてやりがいを感じます。

大屋 米田さんのように、学校や子供たちにしっかり関わろうとして下さる存在は心強いないつも思います。そういう学校の外の「ひと・もの・こと」と、子供たちがつながることができた時には大きなやりがいを感じます。例えば、地域の方や専門家の方を、授業のゲストティーチャーとして迎えたり、実際に実地見学したりして、本物に出会わせることで、教師（私）が教えるよりも、子供たちは真剣に話を聞いて一生懸命考え学ぼうとするんですね。少し悔しいんですけど（笑）。でも、それだけ本物（実際）がもつ力って大きいです。子供たちが本物に触れて「分かった！」「できた！」「これはどうかな？」と言いながら夢中で学ぶ姿を見ると、自分たちの周りの「ひと・もの・こと」とつながることで子供たちにとって深い学びを創り出すことができたんだと、やりがいを感じます。

榊原 つながりって本当に大切ですね。人とのつながり、地域とのつながり、様々なつながりや御縁をつむぐことができる施設が公民館で、何より自分自身も様々な御縁をいただいていることに、やりがいやこの上ない嬉しさや幸せを感じています。以前に勤務していた公民館に遊びに行くと、今でも地域の方が「おかえり！」と迎えてくださいます。自分にとって大好き

なお父さんやお母さんたちが、変わらず温かく迎えてくださる、公民館職員っていいな！社会教育ってすごいな！と思える瞬間です。故郷や家族を増やしていくことができる職場、たくさんの方と交わることができる職場、まさしく交民館じゃん！と思います。

一つながりの先には、色々な希望があり、それを実現できたときにやりがいを感じていらっしゃるんですね。

社会教育主事（社会教育士）としての意気込み

榊原 8年ぶりに公民館に帰ってくることで、館長はじめ先輩や同僚から多くのことを学び、自分自身も成長していきたいな。可部は魅力いっぱいのまちなので、その魅力を一人でも多くの方に知ってもらおう、感じてもらう、味わってもらえるような取り組みができればいいなと思っています。公民館が幸民館であるために！！社会教育に職務として携わる私たちがまずは何より楽しみながら！日々の様々な取り組みに臨んでいきたいな。広島の社会教育、みんなで盛り上げていきましょう～！！エイエイオ～！！☺

大屋 私が携わってきたのは学校教育。同じ教育でも社会教育とは異なります。これまでは学校教育での学びに目を向けてきました。でも、子供たちの学びは学校だけでなく、入学する前も卒業した後も、ずっと続きます。それを見据えた学びの機会を子供たちと創り出していきたいですね。コミュニティ・スクールの充実を通して、もっと学校や先生たち自身が地域に開いていくことが大切。そのために、「社会教育士」として学校と地域をつなぐ1本のパイプになればと思っています。そして、このパイプ役である「社会教育士」仲間を、特に先生の中から作っていきたいです。

米田 府中町には、素晴らしい団体や行政の取り組みがありますが、それはまだ点として存在していて、つながりが不十分だと感じています。色々な団体や人材をつなぎ、行政と連携していくというコーディネートをしていきたいですね。まずは「行政に頼まれてやっている」という意識を変えて、自分事として主体的に活動できる人を増やすこと。そして地域・学校・家庭が協働し、府中町で育った子供たちがまた戻ってきたくなるような楽しい思い出がたくさん安心して持続可能な地域をつくりたい。そのために、志を同じくする人たちとつながっていききたいですね。